

7 国 語

国 語

注 意

- 1 問題は **1** から **5** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時五〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは特別の指示のあるもののほかは、各問のＡ・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1

次の各文の――を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 玄関に美しい梅の花を飾る。
- (2) 陸上選手の跳躍に拍手が起こる。
- (3) 物理学の進歩は社会の発展に貢献した。
- (4) 少しずつ水を混ぜて紙粘土を柔らかくする。
- (5) 宇宙飛行士が喝采を浴びながら迎えられる。

2

次の各文の――を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 高原の湖が霧にツツまれる。
- (2) 熱い思いを胸にヒめて大会へ向かう。
- (3) 母のキヨウリは夏みかんの名産地だ。
- (4) 長距離走で前回よりも記録をチヂめる。
- (5) 海外留学のためにリヨケンの発行を申請する。

3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。

小学六年生の「ぼく（あおば）」と同級生のなまき椰は、アオナギと名付けたオオタカのヒナの巣立ちを、鳥の研究者で自然保護活動をしているかつらぎ葛城たちと共に見守っている。

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(にしがきようこ「アオナギの巣立つ森では」による)

〔問1〕⁽¹⁾ そのアオナギと視線が合った、と思ったその瞬間、ぼくの心はズキユンと射抜かれた。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア アオナギの姿におののく「ぼく」の様子と威嚇するアオナギの様子とを、対照的に描き分けることで表現している。

イ ヒナだった頃のアオナギの姿を思い出し感慨にふける「ぼく」の様子を、擬音語を用いて表現している。

ウ アオナギの巣立ちの瞬間を待ちわびている「ぼく」の様子を、アオナギの視点から客観的に表現している。

エ 全身を現したアオナギと視線を交わした途端に心揺さぶられた「ぼく」の様子を、たとえを用いて表現している。

〔問2〕⁽²⁾ ぼくの隣で椰がつぶやいた。とあるが、この表現から読み取れる椰の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア アオナギとの別れがあつてなかつたので、別れをどのように受け止めているのか「ぼく」に聞いてみようと思っている様子。

イ アオナギが飛び立つ瞬間に自分たちのほうを向いたかどうか気がなつて、「ぼく」に確かめようとしている様子。

ウ アオナギが巣立った後の喪失感を、巣立ちと一緒に見守った「ぼく」と分かち合おうとしている様子。

エ アオナギとの別れに感傷的になりながらも、自分よりももっと悲しんでいる「ぼく」を精一杯励まそうとしている様子。

〔問3〕⁽³⁾ 葛城さんが鼻の横を指でかきながらぼくを見ている。とあるが、この表現から読み取れる葛城の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 「ぼく」のテントでの行動や野生動物についての発言を振り返りながら、「ぼく」への興味を深めている様子。

イ 野生動物を見られなかつた不満を一方的に伝えてきた「ぼく」をなだめ、「ぼく」の気持ちに寄り添おうとしている様子。

ウ 「ぼく」が野生動物を観察していたと思っていたが事実ではなかつたと分かり、どうやって励ましたらよいかと迷っている様子。

エ 野生動物を見た記憶がないという「ぼく」の話から、貴重な機会を逃して落ち込んでいないかと心配している様子。

〔問4〕⁽⁴⁾ ぼくは息を吸って、大きくうなずいた。とあるが、「ぼく」が「息を吸って、大きくうなずいた」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 椰の言葉から、アオナギとの別れを受け入れられなかつた自分を情けなく思い、椰に心配をかけたことも申し訳なく思ったから。

イ 椰の言葉を受けて、アオナギやその子孫にまた会えると自分を納得させ、アオナギとの別れの寂しさを振り払おうと思ったから。

ウ 椰の言葉を聞いて、無事に巣立ったアオナギをいつまでも気にするよりも、森で過ごす今の時間を大切にしたいと思ったから。

エ 椰の言葉から、アオナギの巣立ちを見守った人たちとの別れが近づいているのを実感し、立派な態度で別れようと思ったから。

〔問5〕葛城さんが言い終わる前に、ぼくは叫んでいた。とあるが、⁽⁵⁾

このときの「ぼく」の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 願ってもない誘いに戸惑いつつも山で生活する好機を逃さないように、大声を出して自分自身を勇気付けようという気持ち。

イ 山に誘われたことに対する感謝の思いを、アオナギの巣立ちを一緒に見守った人たちに伝えたいという気持ち。

ウ 葛城の言葉に素早く反応して意思表示することで、山で生活することを祖父に認めさせたいと思う気持ち。

エ 予想もしていなかった葛城からの誘いを受けて、山で生活することへの喜びが湧き上がって抑えきれない気持ち。

4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

〔注〕

（中田星矢「文化のバトンを受け継ぐコミュニケーション」

（一部改変）による）

ヘルマン——ドイツの霊長類学者。

嗜好——人それぞれの、飲み物や食べ物等の好み。

ワシレフスキー——アメリカの進化人類学者。

一子相伝——学術・技芸などを一人だけに伝えて他に漏らさないこと。

〔問1〕⁽¹⁾ 石のハンマーを持っているチンパンジーとスマートフォンを

持っている人間を見比べて、人間の方が賢いというのはフェアな比較ではないように思われます。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア チンパンジーと人間の賢さは、道具の使い方ではなく高度な仕組みを理解できるかどうかで比較するべきであると考えているから。

イ 石のハンマーとスマートフォンだけで賢さを判断するのは不十分であり、他の道具も加えて比較するべきであると考えているから。

ウ チンパンジーと人間の賢さは、持っている道具を基準に判断するのではなく個々の能力で比較するべきであると考えているから。

エ チンパンジーも筆者もスマートフォンの作り方がわからないため、作り方がわかる道具で賢さを比較するべきであると考えているから。

〔問2〕⁽²⁾ 社会的学習によって他者から学ぶことこそが、現代に見られる高度な技術を支える鍵なのです。とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア 因果関係や数量概念を理解する能力が、高度な技術を継承したり

伝達したりするために必要不可欠だということ。

イ 他者が製作した道具を使いこなす能力が、同じ道具を一から忠実に作り直すために必要不可欠だということ。

ウ 道具の使い方を他者に伝達する能力が、さらに便利な道具を開発し続けるために必要不可欠だということ。

エ 他者の行動や様子を捉えて模倣する能力が、世代を超えて技術を発展させていくために必要不可欠だということ。

〔問3〕 この文章の構成における第七段の役割を説明したものとして

最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア それまでに述べた内容を整理した上で、さらに説明を付け加え、この後に紹介する具体例へと論をつなげている。

イ それまでに述べた内容に関して、根拠となる事例を付け加え、この後に述べる主張の前提を明らかにしている。

ウ それまでに述べた内容に対して、対照的な意見を付け加え、この後に続く話題への転換を図っている。

エ それまでに述べた内容をまとめた上で、筆者の体験を付け加え、この後に引き継がれる自説の妥当性を強調している。

〔問4〕⁽³⁾ 実験条件を異なる社会として考えてみると、技術の細部まで伝達する社会とそうでない社会では、前者だけが長い年月を経て非常に優れた技術まで到達できることが示唆されたのです。

とあるが、「前者だけが長い年月を経て非常に優れた技術まで到達できることが示唆された」と筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア 作業工程と完成品の両方を観察した参加者だけが技術を応用することができ、技術革新を達成すると示されたから。

イ 作業工程を観察できた参加者だけが前世代の製作技術を学ぶことができ、技術の改良と継承が続くと示されたから。

ウ 自力で試行錯誤した参加者だけが技術を磨き続けることができ、自分自身の力で高い技術を得られると示されたから。

エ 前世代の完成品を観察した参加者だけが同様の技術を再現することができ、技術の継承が行われると示されたから。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「文化を受け継ぎ発展させること」というテーマで自分の意見を発表することになった。こ

のときにあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「などもそれぞれ字数に数えよ。

5

次のAは、和歌に関する対談の一部である。Bは、対談中で話題にしている藤原俊成ふじわらのしゅんせいが書いた「六百番歌合」ろっびやくばんたあわせの解説文であり、内の文章は引用された「六百番歌合」の原文である。また、内の文章は原文の現代語訳である。これらの文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

A

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

B

掲載許諾申請中

(河合隼雄、池田利夫「松浦宮物語と藤原定家」による)

掲載許諾
申請中

掲載許諾申請中

(前田雅之「なぜ古典を勉強するのか」による)

冬上十三番 枯野 左の勝ち 女房にようぼう(藤原良経ふじわらのよしつね) (の歌)

秋の間に見た美しい景色を何に残したらよいだろうか。秋の間多くの花が咲いた草の原も枯れて見渡す限り同じ景色に変わってしまったている。

右 隆信 (の歌)

霜枯れの野辺の荒れ果てた様子に目を留めない人が秋の寂しい景色には心をとめたのであろうか。

右の歌の作者(隆信)は、(良経の歌の)「草の原」は歌に使う言葉として聞きなれない(のでよくない)と申します。左の歌の作者(良経)は右の歌は古めかしい(のでよくない)と申します。

判定役(俊成)としていうと、左の歌の「何に残さん草の原」というのが優艶でございます。右の歌の作者が「草の原」を非難したのは非常に不満です。紫式部は歌を詠むより物語を書く力が格段に優れています。その上、(源氏物語の)花の宴の巻は、特に優美な話です。源氏物語を見ない歌詠みはともに残念です。右の歌の内容と言葉は悪くありません。というものの、ありふれた平凡な歌です。左の歌の方が素晴らしく、勝ちというべきです。

〔注〕 松浦宮まつうらのみや——平安時代末期から鎌倉時代の歌人である藤原定家による物語『松浦宮物語』のこと。

萩谷朴はぎたにぼく——国文学者。

藤原良経ふじわらのよしつね——平安時代中期の歌人。

朧月夜おぼろつきよ——『源氏物語』の登場人物。女性。

うき身世にやがて消えなば尋ねても草の原をば問はじと思ふ
——つらい身の私が、このまま消えてしまつたら、名を知らないからといって、あなたは草の原を分けてでも私を尋ねようとはなさらないでしょうか。

〔問1〕 Aの中の――を付けたア、エの「ない」のうち、他と意味・

用法の異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

〔問2〕⁽¹⁾河合さんの発言のこの対談における役割を説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 池田さんの『源氏』における歌の説明に疑問をもち『古今集』で
の歌の選び方を尋ねることで、話題を整理している。

イ 『源氏』の歌の作り方について池田さんと共通理解を得られたこ
とで、対談の内容を深めるために話題を『古今集』に転換している。

ウ 歌を詠む上での『源氏』と『古今集』の重要性について池田さん
と共通理解を得たことで、自説を述べるきっかけを作っている。

エ 池田さんの『源氏』の説明に疑問をもち『古今集』との共通点に
ついて質問することで、次の発言を促している。

〔問3〕⁽²⁾むしろ意識的に定家らしくなくつくっているように見えます
ね。とあるが、ここである「意識的に定家らしくなくつくって
いる」を説明したものとして最も適切なものは、次のうちではど
れか。

ア 定家は『万葉集』の時代を想像して書いた『松浦宮』の作中にお
いて、自身の作風とは異なる万葉風の歌も詠んだということ。

イ 定家は『万葉集』を批判するために書いた『松浦宮』の作中にお
いて、万葉風とは違う作風の歌を詠んだということ。

ウ 定家は『万葉集』のよさに改めて気づき、『松浦宮』の作中で徐々
に万葉風の歌を増やしていったということ。

エ 定家は『万葉集』の歌どころが想像できるようになったからこそ、
『松浦宮』の作中で万葉風とは異なる歌のみを詠んだということ。

〔問4〕⁽³⁾「非難するのは」とあるが、Bの原文において「非難するのは」
に相当する部分はどこか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア 聞きよからず

イ 艶にこそ

ウ 難申之条

エ 悪しくは見えざるにや

〔問5〕 A及びBでは共通して『源氏物語』を歌人の必読の物語だと
する俊成の考えが示されているが、A及びBのそれぞれで述べ
られた、歌人にとつての『源氏物語』の価値を説明したものとし
て最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア Aでは『古今集』を読み解くのに適している作品だと述べられて
おり、Bでは歌合の判定の根拠になるほど優美な歌が含まれる作品
だと述べられている。

イ Aでは歌が詠まれる状況や心の動きを理解できる作品だと述べら
れており、Bでは歌を含む物語によって優美な世界を表現できる人
物が書いた作品だと述べられている。

ウ Aでは作中の歌を通じて『万葉集』の時代の人の心を理解できる作
品だと述べられており、Bでは優美な歌合の様子が現代の私たちにも
わかる作品だと述べられている。

エ Aでは歌の技法を理解するのに適している作品だと述べられてお
り、Bでは歌集としての評価以上に優美な物語として高く評価され
ている作品だと述べられている。

1

11

२.

- 1

E

7

7

7

7

5

1	
(1) 飾 る	かぎ る
(2) 跳 躍	ちようやく
(3) 貢 献	こうけん
(4) 混 ぜて	ま ぜて
(5) 喝 采	かつさい

(1)	2	点
(2)	2	点
(3)	2	点
(4)	2	点
(5)	2	点

2	
(1) ツツまれる	包 まれる
(2) ヒ めて	秘 めて
(3) キョウリ	郷里
(4) チヂめる	縮 める
(5) リョケン	旅券

(1)	2	点
(2)	2	点
(3)	2	点
(4)	2	点
(5)	2	点

3		
問 5	問 3	問 1
エ	ア	エ
	問 4	問 2
	イ	ウ

※ ※
2 1
について、読みがなは、ひらがなでもかたかなでもよい。
について、(1)は「包」にも、(2)は「祕」にも、
(3)は「郷(郷)」にも、(5)は「旅」「券」にも、
それぞれ点を与える。

問 5	問 3	問 1
5 点	5 点	5 点
	問 4	問 2
	5 点	5 点

4			
問 5			
	問 3	問 1	
	ア	ウ	
	問 4	問 2	
	イ	エ	

問 3	問 1
5 点	5 点
問 4	問 2
5 点	5 点

4													
問 5													
る	を	に	化		た	や	で	母		問 3	問 1		
俳	磨	関	進	筆	こ	音	並	に	私	ア	ウ		
句	き	す	化	者	と	楽	べ	教	は	問 4	問 2		
の	表	る	が	は	で	を	る	わ	趣	イ	エ		
文	現	祖	促	一	、	添	だ	り	味				
化	力	母	進	忠	表	え	け	な	で				
を	を	の	さ	実	現	て	で	が	俳				
よ	高	教	れ	な	の	仲	し	ら	句				
り	め	え	る	伝	幅	間	た	季	を				
よ	な	を	一	達	が	と	が	語	作				
く	が	踏	と	を	大	発	、	を	っ				
継	ら	ま	述	行	き	表	最	含	て				
承	、	え	べ	う	く	し	近	め	い				
し	言	て	て	こ	広	合	で	た	ま				
て	葉	、	い	と	が	う	は	言	す				
い	を	自	ま	で	り	よ	俳	葉	。				
き	大	分	す	累	ま	う	句	を	初				
ま	切	の	。	積	し	に	に	五	め				
す	に	感	俳	的	た	な	写	七	は				
。	す	性	句	文	。	っ	真	五	祖				

200

100

20

問 5
10 点

5		
問 5	問 3	問 1
イ	ア	エ
	問 4	問 2
	ウ	イ

問 5	問 3	問 1
5 点	5 点	5 点
	問 4	問 2
	5 点	5 点

国語 採点のポイント

(7 一次・分割前期)

問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
4 〔問5〕 配点 10点	<p>私は趣味で俳句を作っています。初めは祖母に教わりながら季語を含めた言葉を五七五で並べるだけでしたが、最近では俳句に写真や音楽を添えて仲間と発表し合うようになったことで、表現の幅が大きく広がりました。</p> <p>筆者は「忠実な伝達を行うことで累積的文化進化が促進される」と述べています。俳句に関する祖母の教えを踏まえて、自分の感性を磨き表現力を高めながら、言葉を大切にする俳句の文化をよりよく継承していきます。</p> <p>(200字)</p>	<p>○テーマ「文化を受け継ぎ発展させること」に即した自分の意見、主張が適切に書かれている。</p> <p>○本文中の筆者の主張を的確に捉え、その主張を踏まえて、文章が適切に書かれている。</p> <p>○自分の意見、主張の根拠となる具体的な体験や見聞について、適切に書かれている。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準』との点数』を定めること。

なお、受検者の実態等にに応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。